

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

29名の犬所帯

逆風が心配される中、大町岳陽高校山岳部では、今年10名（男子8、女子2）の1年生を迎えることができた。上級生と合わせて29名（3年生6[男子4、女子2]、2年生13[男子8、女子5]）の犬所帯となった。例年同様、4月下旬に焼肉で歓迎会をし、翌日は登山。発足直後で装備もない中での登山だったので、今年は残雪が多い鯨ノ峰は諦めて鷹狩山で行った。その代わり空いた時間を使ってロープワークをしたいという生徒の希望もあったので、山頂で少し講習会を行った。

連休中は、1年生にはしっかり勉強することと装備をそろえることを課して、上級生のみで県大会の下見。飯縄山も例年になく残雪。コースが日の当たらない東面・北面・西面で、1400m以上はほぼ全面雪だった。思わぬ雪上歩行となった。念のため持って行ったアイゼンが大活躍。2日間かけて何とかコースを歩くことはできたが、下見とはいえない下見になってしまった。それでも生徒は雪の上を歩けたことで大喜び。思いがけぬ楽しい山行だった。大町岳陽の子たちは、雪上が大好きである。

例年は、連休明けの最初の週末は、山岳総合センターの「高校登山研修会」だが、前号でも書いた通り、栃木の事故もあり、今年はそこで顧問の研修会をし、高校生の研修会は県大会後の6月第2週となった。生徒たちに、そのことを伝え、「えーっ」という反応だった。1年生はともかく、2、3年生にとってはこの研修会恒例の研修会、生徒たちは期待していたのである。6月10、11日にあるからと言って、学校の年暦を見ると、なんと研修会の翌日の12日から15日は中間テストである。大会ならともかく、研修会のために中間テストの前日山に連れ出すわけにはいかない。さらにその翌週は、小生が全国高体連の拡大事務局会議、さらに次週は文化祭ということで、結局このままでは、今年の1年生には僕の一番好きな残雪期の山を知らせることなく終わってしまう……。そこで僕は考えた。たまたま、5月12日金曜日が高体連の大会の関係で休み。本当は1泊雪上で体験させたいところだが、日帰りでも御の字と、針ノ木雪渓での訓練登山を計画した。1人が欠席したものの、参加生徒は、28名。

日帰りとはいえ、前日の準備からてんでこ舞い。山岳センターからピッケルを19本、ビーコンを31個、ハーネス6個、学校からも全校登山の槍ヶ岳隊用のメットを借りて、なんとか28人の生徒の装備がそろった。引率は顧問が4名。ただし雪上技術を指導できる松田大氏が都合で参加できないため、急きょ北アルプス北部遭対協の矢口拓氏に応援を要請。矢口氏は本校の前身の大町高校のOBでもあり、快諾いただいた。こうして総勢33名からなる大編成の登山隊が結成された。「まるで、全校登山」とは、生徒の言だが、まさにそのことばどおりである。

7時20分に学校を出発。8時過ぎには扇沢



に着いた。男子を5班、女子を2班編成として、8時25分に出発。例年より雪が多く最初から雪上歩行である。針ノ木沢に入ると本流の雪崩のデブリの大きさにびっくり。周囲の稜線に目をやると、岩小屋沢も鳴沢も頂上からの稜線はどの沢筋も光っており、最近出たばかりの雪崩のあとがはっきりわかる。まだまだ雪が安定していない。

9時40分大沢小屋に到着。30分休憩、その間に班を編成しなおし、3年生全員と2年生のうち今年の冬山に3回以上行った生徒を上級、それ以外を初級とする2班編成とした。その間にも、雪が大好きな元気な生徒たちは、雪合戦に興じている。

少し偵察をして、訓練場所を針ノ木沢本流と定めたうえで、上級班は矢口拓氏と顧問の矢口先生にお願いし、初級は僕が指導をし、二村先生と黒柳先生にもついてもらうこととした。あらかじめ、訓練時間は1時までとし、上級班は少し上（ノドの下まで）まで長く歩くことをさせつつ、支点構築などロープワークをも取り入れることを矢口氏にお願いし、初級班は歩きの技術を中心に訓練を組み立てることとした。平日で登ってくる人もいないので、雪渓は静かである。

昨日の大雨が去ったあとの快晴ピーカンの中での訓練で気分も上々。僕が指導したのは、16名。読図、キックステップから、ピッケルとのコンビネーション、スタンディンググリセード、グリセード、下降技術、ダガーポジション、斜登行（下降）etc. に滑落停止。およそ3時間の訓練時間はあっという間に終わってしまった。わずかな時間であったが、充実した訓練ができた。上級班の方はすべて矢口氏にお任せで行ったが、僕の意図を100パーセント汲んでいただき、生徒たちも大満足の様子だった。

予定通り1時には大沢小屋に集結、最初の班にもどり、みんなでラーメンを作って食べた。1年生にとっては初めての山での炊事。たかがラーメン、されどラーメンである。ただのインスタントラーメンも山では一味違う。残雪期の山を満喫するには、一晩泊まれれば言うことなしたが、今回は仕方ない。それでも雪と戯れ充実した一日だった。大沢小屋までの往復で、またラーメン作りで、上級生が下級生を指導している姿を見ると、3年生の逞しさと1年生の初々しさが、際立つ。後輩にいいところを見せたいという気持ちがうまく作用する。後輩ができると先輩は伸びる。そんなことを実感させられる山行だった。

なお、縁あって（栃木の事故の取材の中で、雪山でこういった活動をするということの評価してくれたということかな？）、今回の山行の様子をテレビ信州のクルーが取材してくれた。近々ニュースの中で取り上げてくれるそうなので、興味のある方は新聞のテレビ欄に注目しててください・・・（笑い）。

